



一般社団法人 大日本武徳会

会報 **武徳**

2024.10 秋季号



雲海が深山窮谷に洋々と広がり、その秋色に染まった山上の古城は言葉の世界を超えた生々流転の様と静けさが見る者の心を動かす。

天壤無窮とは天地にきわまりのないこと、果てしなき事、限りなきことを表現する。我々が目指す世界は伝統武術、武道の領域においてその研ぎ澄まされた技術に特殊な美学的完成を武徳の芸術性と捉える事も一理ある。

明治中期に偏った欧米文化の吸収に傾斜していた日本の芸術界に警告を促した啓蒙思想家の岡倉天心は、一切の芸術は無窮を趁（お）ふの姿に他ならず、芸術は感情を主とす世界最高の情趣を表現するにあり」という座右の銘を遺して当時の日本画大家である横山大観などに多大な影響を与えた。

天心が唱えたのは正に日本伝統文化への再発見であり、全ての芸術家に対して欧米文化の模倣よりも原点に戻り、無窮に広がる自らの可能性を探求する事であったと思われる。世界が森羅万象の速度で変化していく中で本会の日本武道・武術の伝統精神が脈々と引き継がれ、武徳の魂と絆が雲海の無窮のごとく未来永劫に発展する事を願う。

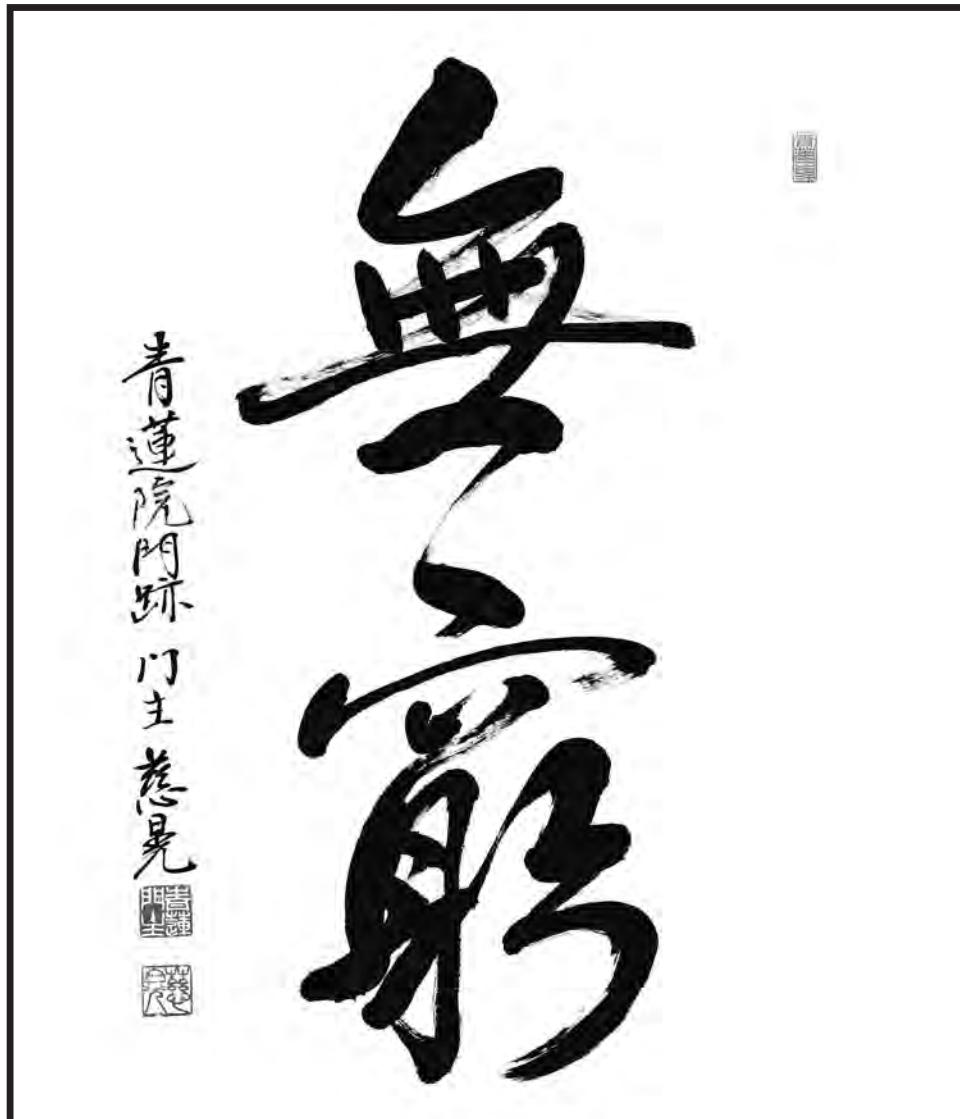
濱田鉄心

写真：Pixia No.60101121

資料：岡倉天心書（横山大観記念館）



一般社団法人 大日本武徳会



未来への挑戦

濱田 鉄心

本年度は四月二十九日京都で第六十二回全国武徳祭が盛大に開催され、参加者全員の熱い情熱と気迫の籠った演武の数々が相互に感動的な影響と感銘を与えて多大な成果を納める事が出来ました。これもひとえに本会会員の皆様の伝統武道保存継承に対する揺ぎ無い決意とご協力の賜物であると確信します。また、京都府、京都市、そして東伏見総裁をはじめとする本会執行部の先生方や大会役員、会員の皆様の絶大なご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

さらに国際部としてアメリカ支部とフランス支部より若干名が参加し、特別招聘団体の素晴らしい演武も披露され、躍動的な青少年部の優秀団体が模範演武をするなど、本大会は実に充実した中身の濃い大会行事でした。前日の二十八日午後に開催された本会の高段者審査会は経験豊富で優秀な審査委員の先生方により厳格で品位ある形で実施され、受審者は全員合格となりました。

また、これまで盛夏に開催しておりました青少年武徳祭について昨今の気候状況を鑑み開催時期を変更いたしました関係で四月二十八日午前に第二十九回全国青少年武徳祭を実施いたしました。青少年参加者は気合の入った威風堂々の演武をこなして日頃の厳しい稽古の成果を存分に発揮していたことが非常に印象的でした。

今春の主催行事において過分なる寄付をしていただいた多くの企業や個人の皆様、大会行事を成功に導いていただいた全ての関係各位にはこの書面をお借りして厚く御礼申し上げます。

今秋九月八日は本会創立百二十九周年記念主催事業として広島県宮島の

厳島神社で奉納古武道演武大会を実施します。世界遺産である国宝厳島神社祓殿での奉納古武道演武大会において日本伝統武道の神髄が見事に発揮され、肅々と奉納されることを祈願します。さらに十月二十七日には年間重要行事として第三十二回平安神宮奉納古武道演武大会が開催されます。これ等の奉納古武道演武大会において国内の会員各位が日頃から切磋琢磨されている伝統武道の神髄を存分に発揮され本会の高遠な武徳の趣旨目的に大きく貢献されますことを祈ります。

二〇二五年（令和七年）は本会創立百三十周年記念の重要な歴史的節目です。さらに我が国の終戦八十周年記念となり、鎮魂の思いで人類の平和と共存共栄を祈らずにはおられません。本会が第七回世界武徳祭を開催し、日本伝統武道を深く敬愛する世界の武道家と集う感動的な国際武道交流を通じて、世界に恒久的な平和と調和のメッセージを発信する最上の機会であると確信します。

本会の誇り高い目標は日本伝統武道の保存継承であり、過去の栄達より受け継いだ深遠な叡智と力強い武徳の魂を内外に広く普及させることが現在と未来への弛まぬ果てしなき無窮の挑戦です。来年度は武徳のグローバルな歴史的意義を総合的に再考する重要な年になる事から、会員の皆様には一丸となって精力的なご支援とご協力を賜りますことを何卒お願い申し上げます。

最後に会員の皆様の益々のご健勝、ご多幸、ご発展を心からお祈り申し上げます。



創立百二十九周年記念

第六十二回全国武徳祭

日時 令和六年四月二十九日（月・祝）

場所 京都市武道センター・旧武徳殿

大会次第

◎ 平安神宮祈願祭 4月29日午前8時40分より

平安神宮

修玉奉	申納	拝演	祓礼武	居合道 範士八段	濱田 鉄心 伊藤 學
-----	----	----	-----	----------	---------------

開 会 午前9時30分開始
総合進行委員長：藤井正巳

総裁・来賓入場	開会宣言	国歌・黙禱	優勝旗の返還	大会検証副委員長 中田浩大	
個人最優秀賞桑原兵充杯の返還	開会挨拶	大会式辞	大会祝辞	弓刀錬心館道場	山本楠城
	大会祝辞	大会祝辞	演武場の注意	誠道館虚心流居合剣法	竹田豊
				大会副委員長	東伏見慈晃総裁
				大会会長	京都府知事
				来賓	京都市長
				来賓	京都市長
				大会管理運営委員長	山田文典

演 武

祓古剣納	いのちの	儀	演武	居合道 範士八段	落合 春彦
	武道演	儀	演武		
	道形演	儀	演武		
	めの	儀	演武	居合道 教士七段	山本 勇

閉 会 式 予定 午後4時35分

選手整	列	彰	評	大会会長	東伏見慈晃総裁
講				大会管理運営委員長	山田文典
閉会	の	辞		大会委員長	濱田鉄心
閉会	宣	言		大会進行委員長	藤井正巳

創立百二十九周年記念 第六十二回 全国武徳祭 表彰

●団体最優秀賞

石川県 北陸連盟修童館

●個人最優秀賞 桑原兵充杯

大阪府 素心流居合抜刀術 宮園 國男

●京都府知事賞

茨城県 水府流 落合 春彦

●京都市長賞

福島県 新誠館 美野 清孝

●総裁賞

千葉県 双水執流武尊会 伊藤 學

国際部 フランス支部 アンドレ コニャー

●理事長賞

京都府 理法塾 松村 則夫

国際部 アメリカ支部 キム ベイラー

●団体優秀賞

京都府・滋賀県 一心無双流居合道剣心会

京都府 理法塾

兵庫県 日本古武道直心会

●団体奨励賞

〔七団体〕

島根県 貫心流

福島県 中村流抜刀道 新誠館

三重県 古流無双直伝英信流居合兵法 神和会

大阪府 弓刀錬心館道場

長野県 古武道唯心会

大阪府 日本古武道 武公館道場

大阪府 神伝円心流

●団体努力賞

〔十六団体〕

愛知県 日本戸山流居合道

茨城県 水府流

大阪府 大阪府修武会

茨城県 陽武館市村道場

千葉県 日本伝一心無双流居合兵法 千葉剣心会

神奈川県 松道流 松栄館

大阪府 日本古武道晟慶館

京都府 直伝円心流居合道

京都府 至誠館

大阪府 誠道館虚心流居合剣法

大阪府 素心流居合抜刀術

大阪府 日本古武道 誠慧塾

兵庫県 心月夢想柳流柔術 古武道甲武館

徳島県 誠正館

国際部 アメリカ支部 武心館

国際部 フランス支部

●招待団体特別賞【六団体】

- 京都府 登龍館・田宮流居合術元和会
- 東京都 鹿島神傳直心影流百錬会
- 兵庫県 一般財団法人大東流合気柔術 琢磨会
- 石川県 無双直伝英信流
- 大阪府 明心館道場
- 大阪府 関西大学体育会 古武道部

●個人賞

●優秀賞【二名】

- 兵庫県 誠道館虚心流居合剣法

●奨励賞【九名】

- 京都府・滋賀県 一心無双流居合道剣心会
- 茨城県 金硬流唐手・沖繩古武術 沖繩県支部
- 神奈川県 杉野道場
- 大阪府 大阪堺守礼館
- 石川県 北陸連盟修童館
- 兵庫県 日本古武道直心会
- 千葉県 日本伝一心無双流居合兵法 千葉剣心会
- 徳島県 誠正館
- 神奈川県 講道館柔道

●努力賞【二十二名】

- 大阪府 大阪修武会
- 茨城県 陽武館市村道場
- 京都府 理法塾
- 石川県 北陸連盟修童館
- 石川県 北陸連盟修童館
- 兵庫県 誠道館虚心流居合剣法
- 京都府・滋賀県 一心無双流居合道剣心会
- 京都府・滋賀県 一心無双流居合道剣心会

山本哲也	伊藤正樹	木下賢司	中森順子	長田妙子	平田与一	小田尚幸	中野秀人	川崎竹藏	早坂義文	岩田一政	村山盛哲	榊山正博	石本一平	村上亨	檜野正聡	藪崎聡	山本勇
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	-----	-----

石川県	北陸連盟修童館	東出廣志
福島県	無雙直傳英信流	佐々木伸
神奈川県	松道流 松栄館	野川栄一
大阪府	弓刀錬心館道場	浦上則國
大阪府	日本古武道晟慶館	渡邊祥正
京都府	至誠館	沖田茂宏
京都府	剛柔流	渡邊勉
大阪府	武徳和魂会 心傳流柔術	野村功
国際部	アメリカ支部	ブルースマイヤーズ
国際部	アメリカ支部	ホリークンパイティス
大阪府	日本古式武道協会 拳正会	岡田豊
長野県	古武道唯心会	小松秀敏
国際部	アメリカ支部	ジェフウィリアムズ
兵庫県	心月夢想柳流柔術 古武道甲武館	青木克憲











第六十二回 全国武徳祭
開催結果報告書

一般社団法人大日本武徳会

理事

山田 文典

一 開催日時

令和六年四月二十九日午前九時三十分から午後四時三十分

二 開催場所

京都市旧武徳殿

三 参加団体・参加人数

六十団体・百八十九名

四 開会式

開会宣言、国家・黙祷、優勝旗の返還、最優秀賞桑原兵充杯の返還、開会挨拶、大会式辞、演武上の注意

五 演武

祓いの儀、古武道演武、剣道形演武、納めの儀

六 閉会式

表彰、講評、閉会の辞、閉会宣言

七 総括

今回の全国武徳祭は、長いコロナ禍の中を乗り越えて、気持ちも新たにさせるような、まばゆい光に満ちた、新緑映える「武道の聖地」京都市旧武徳殿において開催された。

執行部においては、演武中に負傷事案の発生や検証、管理運営等に課題を残す反省点もみられたが、各参加団体の気迫の籠もった演武の披露と厳肅な会場管理により会場が一体となった厳格な礼節の実施により本会が目指す日本伝統武道の保存・継承がみごとに示された素晴らしい大会となった。

濱田鉄心代表理事は、閉会の挨拶の中で、「本日の感動を来年開催予定の創立百三十周年、終戦八十周年記念、第七回世界武徳祭、第六十三回全国武徳祭という記念すべき大会に繋げよう。」と締めくくり盛会の内に終了した。

御礼の御挨拶

創立129周年記念第62回全国武徳祭も皆様の多大なるご協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。ありがとうございました。

厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

大会参与

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体・企業（順不同）

御芳名	御芳名	御芳名	御芳名
濱田鉄心様	杉野至寛様	深野良興様	齋藤勝則様
中田武太様	上村雅彦様	柳田邦治様	杉生闡祐様
山本楠城様	早坂義文様	小松秀敏様	山川正様
伊藤學様	山田文典様	石本一平様	神和会様
西村義行様	中野秀人様	北川茂様	山本哲也様
平林裕蔵様	渡邊勉様	樋口友視様	土屋恭之様
落合春彦様	田中悠樹様	森内一藏様	
坂本俊一様	竹田豊様	日本古式武道協会 拳正会様	

最優秀団体賞

全国武徳祭・青少年武徳祭を終えて

北陸連盟 修童館 長田 順一

本年四月二十八日より開催されました青少年武徳祭・高段者審査会・武徳祭前夜祭・全国武徳祭の報告をさせていただきます。

北陸地方（石川県・富山県）では令和六年一月一日に能登半島地震に見舞われ今直、大きな傷跡が残って居ります。現在も能登地域は仮設住宅にも入居出来ず金沢・小松地域に多数の方々が一時避難されています。

その中で四月二十八日「第二十九回青少年武徳祭」二十九日「第六十二回全国武徳祭」が開催されました。当初は会員の諸事情を考慮して不参加も検討されました。中田武太館長の下で本部理事会よりの強い要望もあり、不参加者を数々に止めて武徳祭に臨みました。

青少年武徳祭選手十一名・全国武徳祭の戸山流居合道十名・同じく英信流居合三名・風傳流槍術二名そして青少年の引率者を含め四十名での参加となりました。演武祭に臨む為の準備も充分に出来ない中の参加です。青少年選手は二日連続の演武です。演武内容も多少変更して大会に臨みました。

基本居合組太刀・八方抜き・本居合を演武時間に合わせました。青少年の選手は例年七月開催が四月に変更になり、稽古時間にも制約がある中しつかり演武してくれました。稽古の送り迎えに協力頂いた皆様有難う御座いました。参加選手の皆さん方との祝勝会も楽しい思い出です。

全国武徳祭演武の戸山流皆さん方にも特別な意味合いもあります。金沢道場の低段者三名を本部席前前列に、中央列には小松道場の女子二名青年二名を、そして最後列には、年配高段者の配置で臨みました。今までの高段者を先頭に並べる方式から替えました。演武者全員の合同稽古も当日の僅かの時間のみです。前列に並んだ金沢道場のメンバーには何かを感じてもらったものでした。英信流演武の三名は井本八段を後に各自の段位に合わせて熟練の演武です。日々の稽古量が表れていました。最後は槍術風流は二人共七十歳を超えた高齢者ですが、中田大作先生から学んだ技を今に伝えていきます。

閉会式の表賞式におきまして、北陸連盟が団体最優秀賞として参加選手に賞を頂きました。能登半島地震にも負けず武徳会会員として事に当たったわとのお気持ちと推察いたします。有難う御座いました。

昨年の第六回世界武徳祭は最高の演出で感動しました。開会式では、武徳会を導いて頂いた先生方にお会いすることが出来ました。九段・十段者の辻野正勝・山口峻輝・柳田邦治・杉野至寛・中田武太・深野良興・前田誠・宮園國男の皆様方が武徳会に何らかの影響を与えて頂いた先生方の表彰でした。「人間はただ消え去るのみ」との言葉も有りますが、長寿に生きている間は日々の楽しみを見つけ毎日を送るとあります。私もそれを目指したいと思えます。

今年の秋には「北陸連盟修童館」館長中田武太先生「米寿」理事長の中森茂範先生「喜寿」の長寿のお祝いを迎えられる。両先生とも今なお子供達に居合道稽古の指導をされてお出でます。今年秋の平安神宮古武道大会に参加を目指したいとお言葉です。

最後になりますが、全国武徳祭参加の皆様方、本部先生方に震災に関してお言葉を掛けて頂きました。お礼申し上げます。有難う御座いました。



個人最優秀賞

大日本武徳会創立百二十九周年記念
第六十二回全国武徳祭に参加して

素心流居合抜刀術

宮園 國男

令和六年四月二十九日（月祝）、京都市武道センター旧武徳殿にて第六十二回全国武徳祭が開催されました。毎年出来るかぎり参加させて頂いて居りますが、最近では年齢も後二年にて八十歳に手が届く歳に成り、最近では体の衰えも有り中々剣が思う様に振れ無く成り、切実に実感致して居る今日今頃で御座居ます。前夜祭の時にもお話しさせて頂きました。背伸びせず自分が今持ち合せて居る力量にて演武出来る様に素、無、空の心境で演武させて頂きました所、個人最優秀賞と言う名誉有ります賞を頂き本当に思いもよらず天女様が私の頭上に舞降り下さりました。本当に私如きに恵賀を総裁、代表理事を始め役員皆様、又諸先輩方のお陰だと私心より深く感謝致して居ります。誠に有り難う御座居ました。今後年齢的に考えましても下降線を辿る一方だと思えますが、精一杯頑張りますのでどうぞ皆様方の暖かい御支援御指導賜ります様宜敷くお願い致します。誠に有り難う御座居ました。



京都府知事賞

被いの儀を終えて

居合道 水府流

落合 春彦

第六十二回全国武徳祭に於いて、被いの儀の名誉ある大役を仰せ付かり、演武させて頂きまして、心より感謝申し上げます。

私事ですが、七年前に脳出血という病で倒れ、必死に病氣と闘ってきました。今までできた日常生活の歩く、すわる、立つという動作までできず、体の左半身にしびれが残りました。けれども、武徳祭で必ずや演武するという目標で、毎年臨みました。リハビリでは、週三回、デイサービスに行き、温水プールでは、歩きました。毎日、自宅の庭で、木刀を振り続けました。

今年の武徳祭で、被いの儀の時に自分の名前を呼ばれ、とても緊張しました。演武場は水を打ったように静かで、場内にいる皆様の視線が痛い程でした。現在できる限りの技を取ることができました。

このような機会を設けて下さり、総裁様、濱田代表理事はじめ諸先生方、本当にありがとうございます。また、京都府知事賞をいただき、思わず涙が湧きあふれてきました。

これからは、大日本武徳会のために、いっそう努力していきたいと思えます。

団体優秀賞

団体優秀賞を受賞して

一般社団法人大日本武徳会 理事
一心無双流居合道剣心会 総師範

山田 文典

大日本武徳会創立百二十九周年記念 第六十二回全国武徳祭におきまして団体優秀賞を頂き有り難うございました。
当流派は、滋賀県琵琶湖を中心に五箇所の支部道場で修練に励んでおり、本武徳祭は、全体が集結して演武する機会が少ないことから意志統一が課題となっております。

今回の武徳祭では、参加した会員のほとんどの者が私の担当する管理運営の業務にボランティアで従事しており、演武は、事前稽古なしのぶっつけ本番となり、立派な演武ができるか少し不安もありましたが、表彰を頂き大変嬉しく思いました。

現在、当流派では、中堅クラスのレベルアップを図るため組居合の研修会を定期的に開催しております。組居合は、初心者に間合や剣の理合を伝えるばかりではなく、中堅剣士へ「観見の目付」の体得を目指し実施しています。「観見」とは、剣豪宮本武蔵が残した「五輪の書」に出てくる教えの一つで「目」で見える相手の物理的な動作を見るのではなく、目では見えない相手の心の中を捉える「観」（洞察力）を養うものとされており、居合形における仮想敵との相對動作の修練を行っています。実際に仮想敵をおいて修練することで日本伝統武道の奥深さに触れることができるかと考えております。



十五名の演武者それぞれが仮想敵をしつかり意識して演武できたことは、平素の修練の成果が出たのではないかと思います。
今回の表彰を糧として秋の演武会、そして来春予定されている世界武徳祭へ向け、更なる目標を掲げて修練を続けて参りたいと思っております。

団体優秀賞

団体優秀賞を受賞して

一心無双流居合道剣心会

小中 祐治

この度、京都市旧武徳殿において、第六十二回全国武徳祭が盛大に執り行われましたことを心より喜び申し上げます。また、このような伝統ある大会に一心無双流居合道剣心会の一員として、参加できたことは大変光栄なことであり、代表理事濱田鉄心先生はじめ、大会役員のみなさまに心より御礼を申し上げます。

私自身、日々修練を積んでおり、幾つかの演武の場も経験しておりますが、演武場に足を踏み入れた瞬間は、緊張感で胸が高鳴り、普段の稽古と同様の落ち着きをもつて演武に入ること難しいことが多々あります。しかし、平素から共に稽古をしている当流派の仲間の気迫のこもった技が目に入ること、自然と心が落ち着き、普段どおりの演武に近づいていきます。本大会においても、日々の活動や演武の技量と併せて、当流派で長年培われてきた一体感が審査員の先生方にも伝わり、御評価いただいたことが、『団体優秀賞』受賞に繋がったのではないかと感じております。

今回の大会への参加を通じて、自身の武道の技術向上だけでなく、他の参加者との交流や、張り詰めた緊張感の中での演武などから多くの学びを得ることができ、自らの技量や課題を客観的に見つめ直す機会にもなりました。

今後も一心無双流居合道剣心会の一員として恥じることのないよう、修練を重ね、心と技を磨き、日本伝統武道と一般社団法人大日本武徳会の発展に貢献できる武道家となるべく、更に精進を重ねて参ります。

理事長賞・団体優秀賞

理事長賞・団体優秀賞を受賞して

理法塾
松村 則夫

今年の全国武徳祭で理事長賞・団体優秀賞という大きな賞を頂戴し誠に有難うございました。

思い起こせば一色克己先生に連れられて理法塾門下生三名と共に大日本武徳会に入会したのが十八年前でした。大日本武徳会の下で地道に居合稽古に励み各古武道大会に毎回参加を目標に頑張ってきました。

理法塾の会員は十名程の時もあり皆競って先生の教えを受け、居合をするにもとつても楽しい時期でした。コロナ禍になり稽古は地域の学校の施設を使用している関係上稽古もままならぬ時期があり、色んな理由で会員も減り、団体の様成さぬ時期は木下先生と二人で稽古に励みました。会員増加を図る為に木下先生の仕事関連から色々と御尽力頂き、居合をやりたいたいという皆さん、お年は取っておられるが、早々に道具から揃えるという意気込みに感激し、何とか武徳祭に出ようと合言葉で頑張って稽古に邁進されました。その結果が団体優秀賞に繋がったと思います。

これからも一色克己範士の常々言われていた「上体を正しく肚で抜き肚で斬り肚で納刀」のように何事も腕の力に頼らず丹田で行うことは、年をとつても楽しく居合が出来る一つの方法だと思えます。これからは一色先生の教えを少しづつ伝え、理法塾を守ってくれる若い人が育ってくれるまで居合を修練して行きたいと考えています。

団体努力賞

創立百二十九周年記念第六十二回全国武徳祭において団体努力賞を受賞して

松道流護身武道
野川 栄一

松道流護身武道松栄館が旧武徳殿で演武を披露し、団体努力賞を受賞したことは、松道流にとって歴史的な快挙であると思っております。

大日本武徳会に入会を許され、平安神宮奉納古武道演武大会の次に参加した全国武徳祭へは、相久、謙久の二名で演武に臨みました。演武は體術と短棒術で、謙久は十六才から私と稽古をするようになって二十数年が経った稽古仲間です。演武において謙久が云うには「本気でやりすぎました」と、私は「気合いが入り過ぎ謙久を煽ってしまった」という思いがありました。ほっとした気持ちで迎えた表彰式において、松道流護身武道松栄館は団体努力賞をいただきました。ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。賞状と盾は松栄館道場の上限に飾らせていただきました。



団体努力賞

団体努力賞を受賞して

無双神伝抜刀術兵法 誠正館
(居合二段)
鈴江三司郎

新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが五類に移行し、一年が経ちました。いろいろないイベントが恐る恐る再開され、旅行者も増えようやく以前の活動ができるようになった感があります。そんな中、第六十二回全国武徳祭が盛大に開催

され、各先生方の稽古の成果を拜見することができ、又当道場には団体努力賞を頂けたことは光栄の至りです。

約三年間の自粛が明け、年齢、性別、国籍も様々な方が武道という共通の目的のため集まり、稽古したり談笑できることは、あたりまえでなく、本当にありがたいことだと日々痛感します。

当道場は、今後も檜野先生のご指導のもと練習生一同協力し合い、道場を盛り上げていきつつ、精進を続けていきたいと思えます。

団体努力賞

団体努力賞を頂いて (旅の途中で)

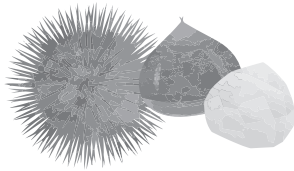
一心無双流居合兵法

千葉剣心会

居合道四段

花井バネツサ

居合道を始めたとき、私はただ刀の使い方と形の練習を学ぶだけだと思っていました。私はすべてをできるだけ早く学びたいと思っていました。私はせっかちで、自己主張が強かったのです。居合道は私に忍耐を教えてください、武道は技術だけではなく道を歩むことだと教えてくれました。私はまだ旅の途中ですが、居合道は私をより良い人間にしてくれると信じています。グループ努力賞をくださった大日本武徳会に心から感謝の意を表したいと思います。



個人優秀賞

個人優秀賞をいただき

虚心流居合剣法

山本 勇

創立百二十九周年記念第六十二回全国武徳祭におきまして、図らずも個人優秀賞をいただきました。私としては反省点多き今大会でありましたところ、このような栄えある賞をいただき大変恐縮いたしております。これもひとえに代表理事をはじめ諸先生方のご指導の賜と深く感謝いたしております。ありがとうございました。

日本古来の武道である居合道及び剣道を学ぶ者として、この貴重な文化を如何に研鑽、伝承していくかは重要な問題であると痛感しております。この伝承面からも武徳会の存在意義は計り知れず、浅学菲才、微力な私ではありますが、武徳会の発展に寄与しなければと覚悟を決めている次第です。武徳研鑽、人格形成に更に励み、道を外さず、目標に向かって歩み続けることが大切であり、また、私の大きな幸せでもあると思っております。

個人奨励賞

個人奨励賞をいただき

一心無双流居合道剣心会

川崎 竹藏

第六十二回 全国武徳祭におきまして 個人奨励賞の榮譽によくしました。心より感謝申し上げます。お礼申し上げます。剣心会会員も増えており 今大会にも 管理運営委員として 活躍してくれました。共に喜んでおります。

私事ではありますが 目を患っております。大会に参加出来るかどうか心配いたしております。でも 頑張れました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

つたない俳句です。

『左病み 右目に初夏の武徳祭』

個人奨励賞

奨励賞を受賞して

大日本武徳会沖縄県支部
金硬流唐手・沖縄古武術 範士八段

早坂 義文

私はかつて、平成十二年四月二十九日第二回世界大会・全国武徳祭に参加し、奨励賞を受賞しました。

そして、今回二度目の受賞になります。私が継承する流儀の師匠成瀬関次先生は、戦前梨本宮殿下の前で山本流居合術の演武をして、奨励賞（錬士）を受賞した事を著書の中で書かれていたことを思い出しました。

この奨励賞を受けることが、その昔は錬士に成ることであつた重要なものでありました。

現在も、この証書の重みを噛みしめながらさらなる精進と後継者の育成、そして、来年も武徳精神に則った礼節と気迫に満ちあふれた演武ができますように、日々鍛錬していく決意です。

個人奨励賞

奨励賞をいただき

沖縄又吉古武道光道館公認道場・
上地流空手道大阪堺守礼館 館長 範士八段

村山 盛哲

この度、第六十二回全国武徳祭において、「奨励賞」の栄誉をいただきまして、身に余る光栄であり感謝申し上げます。大会会長はじめ本大会の運営に携われた役員の方々から感謝致したいと思います。

今回の大会は本部役員の方、各係の方々のご尽力のお陰で、演武の時間配分や

進行が予定通りに運営され、各団体・個人の方々の力強く迫力ある格式高い武技の見事な演武披露などがあり毎年の事ながら素晴らしい大会でありました。

大会に参加して各武人の演武を拝見し私が常々感じていることは、年齢を重ねるにつれて体力が低下する日々を過ごす中で、武道は年齢に関係なく、日々の努力を続ける事が大切だと再認識させられました。

修行の過程で練習の効果が思うように上がらない場合にイライラすることはしばしば経験することですが、その原因を鑑みて自分自身の努力は十分だったか、自分の都合や努力不足を棚に上げてなかったか、等を反省し何ができるかを工夫することや、自分の欠点や改善点を改める事が一事を成就させられるものと確信しております。これからも健康に留意し斯道の発展に努力を続けていくことでよりよい成長・新しい道が開けると信じ、生涯現役を追求したいと思います。

終わりになりましたが一般社団法人大日本武徳会の益々のご活躍とご発展を願ってやみません。ありがとうございました。

個人努力賞

日本剣道形の演武について

虚心流居合剣法

平田 与一

今回の武徳祭では、日本剣道形と虚心流居合剣法の二つを演武する機会をいただき、大変光栄に思っています。

日本剣道形を武徳殿で一組だけで、打太刀として演武するので、より一層の緊張感を持ちながら、演武に臨みました。

日本剣道形は一九一二年に、大日本武徳会が制定した大日本帝国剣道形から始まり、今日に至っています。大刀七本と小刀三本があり、そのうちの大刀七本の演武をしました。

剣道形は、お互いが寸分の緩みなく、気を働かせ、目付や呼吸を心得て、充実した氣勢と気迫をもち、合気で行う必要があります。さらに、相手を斬る機会と間合を瞬時に正確に理解することや、技の後の十分な残心が必要です。日本剣道形を修練することは、剣の理合や内面的な気の働き、気位などを会得するのに効

果的のです。

今回の演武や稽古を通じ、未熟で改善の余地はありますが、その本質に触れた気がしました。

今後とも武道の継承と保存、発展のため、修練を重ねていこうと思います。

個人努力賞

創立百二十九周年記念第六十二回全国
武徳祭において個人努力賞をいただいて

松道流護身武道 野川 栄一

松道流護身武道の推進役として、四十数年前に大先生（松本真兼久）から稽古をつけていただいた體術（天之卷上段之位十二本）と短棒術（五本）で全国武徳祭の演武に臨みました。旧武徳殿の重厚な会場での演武は、自然と身体中に気が満ち溢れ、激しい演武の披露となりました。授賞式では、充実した心持ちで控えていました。そこに、私の名前が呼ばれた瞬間には嬉しさと喜びが合わさった気持ちが沸き起こり、その感覚を抱いたまま指定箇所に進み、賞状と盾を受領しました。全国武徳祭の第一歩を無事に終わり、感謝の心が胸いっぱいには広がっておりました。持ち帰った賞状と盾は早々に道場に飾り、その賞状と盾を見ながら道場に佇んでおりました。ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

個人努力賞

個人努力賞を受賞して
一人一人の修練の積み重ねの大切さ

虚心流居合剣法 錬士 六段
弓刀錬心館道場 師範代

浦上 則國

この度は、第六十二回全国武徳祭において個人努力賞を授与されたことは、誠に光栄の至です。ご指導くださった北川茂先生をはじめ、多くの先生方に厚く御

礼申し上げます。

また今回は、前任地である福井道場の奥公男剣士と組太刀ができたことも大変嬉しいことでした。仕事の関係で約八年間稽古を続けてきた福井の門下生たちと別れ、一人、東京での稽古が始まったのが二〇一九年春。新型コロナウイルスを経て、やつと東京でも門下生を得て東京道場も動き始めました。ありがたいのは、その間も福井で稽古が続けられ、次の世代が育っているという点です。特に、お互いの間合いや呼吸を読まなければならぬ組太刀を、わずかな打ち合わせと位取りだけで行うことができるという点から、日頃の稽古でしっかりと修練がなされ、一つの業の継承がなされていることも感じられました。

来年の世界武徳祭に向けてより一層稽古に励むと共に、修練者の育成にも力を注いでいきたいと思えます。

個人努力賞

昇段審査と努力賞

理法塾 木下 賢司

神から授かったとされる「業」を居合として完成された林崎重信。それから数百年伝承され「武道」として私達はその精神や考え方を学びとる為に習練を積んでいる。死ぬまで修行」と言い表されるが、延々と続く中で、一つの「関所」と考えられたものが「段位」習練の目安」ではなからうか？二〇二四年度高段者審査が開かれると聞き及び、私にも受審資格がありますか？と本部に問い合わせると「受審して下さい」と返答を頂き、この与えられたチャンスに感謝し挑戦する思いで申し込みました。演武中は無我夢中で「技」の順番も忘れていました。結果は「可」で、翌日の大会でも「努力賞」を頂き、合わせて考えると「段位」とは「深遠」なるものであると思った。今後は精進し、後輩達に技を伝えてゆこう！

第六十二回全国武徳祭等を終えて 管理運営委員長から思う

一般社団法人大日本武徳会 理事
一心無双流居合道剣心会 総師範

山田 文典

大日本武徳会創立百二十九周年記念 第六十二回全国武徳祭が盛會に開催できましたことを心からお祝い申しあげます。

管理運営委員長の重任を諸先生、参加皆様のご協力のお陰で事故なく達成できましたことに厚く御礼申し上げます。

今回の全国武徳祭は、前日二十八日の青少年武徳祭、高段者審査会、支部長・団团长会議、武徳祭前夜祭を前段行事として開催したもので、それぞれ昨年からの準備は行っていたものの、本番に至っては分刻みの多忙な時を経験いたしました。これは、年々高温化する気候変動から例年、七月に開催している青少年武徳祭を健康上の配慮から清涼感のある季節に移行して実施したもので、行事を連続させることで、各団体の先生方や参加者の負担にも心配をいたしました。

しかしながら開催の結果、昨年の反省事項となった体調不良者も出ず、気力充実、気迫の籠った演武が両大会ともに繰り広げられました。また遠方からの参加者にとつても親子双方が一気に参加できることや経済的なメリットがあるとの声も聞かれ、執行部といたしましても安堵している次第です。

今回の全国武徳祭では、国際部（アメリカ、フランス）の武道家、招聘演武団体の演武披露とコロナ禍を乗り越えて充実した内容の大会になり、さらに管理運営面では、会場内外での礼節を重視した規律ある会場運営ができましたことに大変嬉しく、ご協力に厚く感謝申し上げます。

今年の秋には、本部主催初めてとなる創立百二十九周年記念広島県宮島厳島神社奉納古武道演武大会、平安神宮奉納古武道演武大会が予定されております。更に、来年の第七回世界武徳祭の準備が既に始まっております。会員の皆様におかれましては、一層のご精進をお願い申し上げます。

先生方、引き続きご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



第六十二回全国武徳祭を終えて

登龍館・田宮流居合術元和会 藤井 貴吉

この度、「創立百二十九周年記念第六十二回全国武徳祭」が盛大に開催されました事、心よりお慶び申し上げます。また、このような歴史ある大会に招待いただき一同感謝しております。

近年、動画配信サイト等で武道動画の配信が多く見られます。しかし、礼節や理合等を軽んじ「如何に見栄えを良くするか」に重点を置いた物が増えていくように感じます。この傾向が強くなれば「武道」が単なる「パフォーマンス」と考えられる危険性があります。

このような流れがある中で、大日本武徳会が重んじ、指導しておられる「礼節」をはじめとした武道精神は武道と言う歴史的財産を後世に引き継ぐ為に重要で、今回の大会で参加者一同、それを肌身で感じる事が出来、自らを見つめ直す貴重な機会となりました。また、招待いただける機会があれば、是非とも参加させて頂きたいと考えております。

直心影流五百年の伝統を携えて

鹿島神傳直心影流百錬会 渡邊 嘉之
会長

このたびは、歴史ある「大日本武徳会」の「第六十二回 全国武徳祭」に招聘頂き、武徳殿にて奉納演武をさせて頂きましたこと、たいへん光栄に存じ、心から感謝申し上げます。

私ども直心影流は、平安時代末期に鹿島神宮の宮司でもあった松本備前守を流祖として、現在までに、五百年の伝統を維持しております。

あらゆる面で混迷を極める現代の日本、さらには終わりなき殺戮が続く世界情

勢において、今こそ見直されるべきは、日本精神のど真ん中に位置する「武士道精神」です。そのことは、むしろ世界中の有識者の方が、気づき始めております。その「武士道精神」は、けっして頭や文字で学べるものではなく、スポーツ化していない「伝統武道」の呼吸や型によってこそ身に付いていくものであります。志ある現代の武道家たちが一堂に会して、技を競い合う「武徳祭」の真の意義は、ここにあると再認識させて頂いた次第です。

初めての招待居合演武ありがとう。

無双直伝英信流（石川県）居合 北島 國紘
野村條吉門下生

今度の大日本武徳会、全国武徳祭に参加し真に武道を熱愛する同士の諸兄と居合を演じ活躍も出来ました。ありがとうございました。演武場では礼式その他規律を守り、私語なども全くなく節義を重んずる貴団体の在り方に深く満足もいたしました。武道の奨励発達を極言し益々発展すること、ひたすらお願いいたします。演武実演場の床面は雑巾がけをしたように綺麗で艶々しているようにみえましたがその実は幾多の先哲が踏みしめた凹凸があり我輩も利き足を押し付けたり摺り込んだりして無二無三に打ち込み足裏、土踏まずで感触を察しませてもらいました。

当日、わが師が大日本武徳会より昭和三年に精錬証を表彰された昔日を偲ぶつつも実演中は天界から野村翁が「ニコヤカニ」ご覧くださっているはずと一心が籠もりました。

世の中、スポーツ居合で優劣を競うのに背を向け自由に稽古をしていましたが、この度の招待居合を機にマニール「型、方法」をもう一度基礎からやり直そうかとの心境ですが、年八十、まだ学んでも足りないだろう。

高段者審査会
合格者

【居合道】

六段

徳岡

秀一

六段

西

小巻

六段

玉井

秀一

七段

伊藤

正樹

七段

木下

賢司

七段

齋藤

勝則

八段

山本

勇

【空手道】

八段

渡邊

勉



前夜祭

